

## 平成 23 年度 大阪府立住吉高等学校の教育目標

### めざす学校像 (平成 23 年度 大阪府立住吉高等学校経営計画より)

本校は、大阪市内の北畠・帝塚山に建つ伝統校であり、地域からの期待は極めて大きい。平成 17 年度に国際・科学高校に改編された後は、それまでの普通科と国際教養科併置時代の国際教育に特色を有していた住吉高校から、理数教育の専門性を高めた総合科学科と、従来の国際教育を特色とする国際文化科の2つの専門学科で構成する専門高校へ生まれ変わった。現在、時代のニーズに応え、社会的な使命を果たす学校として、地域や地元の中学校の評価はますます高くなっている。

平成 19 年度に文部科学省から SSH(スーパー サイエンス ハイスクール)に指定され、また、平成 20 年には本校の中 20 期の下村博士がノーベル化学賞を受賞するなど、理数教育の分野において本校には、科学技術立国の我が国を担う将来のリーダー育成がよりいっそう求められている。さらに、平成 20 年度にはユネスコスクールに加盟し、国際交流活動のさらなる充実に努めており、国際交流と「使える英語」教育を柱に国際教育を更に充実させ、国際社会で活躍できる有用な人材を育成する学校としての社会的使命を果たさなければならない。以下は、本校がめざす学校像である。

- (1). 国際・科学高校として、本校の国際教育と理数教育をいっそう充実させ、これからの社会で活躍する有為な人材の育成をめざす。
- (2). 生徒の希望する進路実現が図れる学校として、地域の願いに応えられる学校をめざす。
- (3). SSH事業等を積極的に活用して、実験実習のほか多様な体験を通して生徒の志を高め、将来の進路を自ら拓く生徒の育成をめざす。
- (4). 国際・科学高校として「使える英語力」のよりいっそうの向上を図るとともに、ユネスコスクールとして国際教育を積極的に実践し、国際感覚・人権感覚に富む生徒の育成をめざす。

### 住吉高校の現状と課題

#### 【学校運営の重要課題】

本年度の入試選抜では、前期選抜で競合した進学指導特色校の文理科の設置と、公立と私立の高校が切磋琢磨するという府の施策で制定された私学の授業料無償化の影響は本校には極めて大きかった。

今回の私学授業料無償化により、私学に合格し、私学への入学を担保した生徒が、前期選抜で文理科をチャレンジ受験する傾向が見られた。そのため、従来は住吉高校を受験していた生徒層が文理科を受験したため、本年度は本校の志願者倍率と合格者の評定平均値は下がるという事象が生じた。ここ数年の住吉高校の教職員の努力による右肩上がりの志願者状況は一転することになった。

本校は、SSH指定及びユネスコ加盟など、これまで国際・科学高校として多様な特色ある教育活動を推進してきた。今年、新たにEFHS(イングリッシュ フロンティア ハイスクール)G3校として3カ年の指定を受け、本校の特色ある教育内容は、いっそう充実することになる。しかし、多くの特色を有する住吉高校が、今後も文理科や私学授業料無償化の流れに埋没することなく、伝統校として、これまで以上に生徒・保護者・同窓生の期待に応えるためには、学校として更なる努力が必要である。

外的には本校の特色ある教育内容が中学校等によりいっそう周知されるよう、これまでの充実した広報活動をさらに工夫しなければならない。また、内的には、本校が培ってきたすばらしい特色である国際教育・理数教育をこれまでどおりに高いレベルで維持、充実させるとともに、生徒の希望する進路実現をめざして教科指導と進路指導のいっそう充実が不可欠である。

そのため、すべての教職員は、これらの特色ある取組みを全校的なものとして位置付け、さらに進路保障も含めた本校の教育方針と教育目標について共通理解を深めることが涵養である。

今、全教職員が「**チーム住吉**」となって、各教職員が共通の理解のもとで、その指導力を十分に発揮しなければならない時代に入ったと言える。

【日常的な課題】

### **(1). 日常的な学習量の確保**

昨年度の授業評価アンケート調査で明らかとなった「家庭学習量の不足」は、進学希望生徒の多い本校にとって大きな課題である。家庭学習量の確保には、各教科での学習指導が不可欠である。また、日常的に様々な学校行事や部活動に埋没されることなく、日々の学習量を確保するためには学習習慣の定着に加え、早朝・放課後等の学習時間の確保、とりわけ自習室の活用促進を図りたい。

### **(2). 部活動の活性化**

本校では、多くの生徒が部活動(運動部・文化部)に加入し、日々活動している。しかし、教職員の日々の業務は多岐にわたり、部活動の指導に十分な時間的余裕がないという状況にある。部活動は生徒の自主性を育む重要な活動である。部活動の活性化に向けて管理職は現状を的確に把握し、部活動に必要な外的支援を含む体制づくりを検討する必要がある。

### **(3). 遅刻をはじめ服装及び頭髪などの指導**

昨年度の目標に遅刻者数の減を挙げたが、残念ながら達成できなかった。本年度も引き続き、遅刻指導のいっそうの充実が必要である。また、本年度から新入生には推奨服の全員購入をお願いした。式典や来賓を迎える学校行事等での推奨服の着用使用の指導を、いっそう進める必要がある。頭髪や化粧の指導についても、生徒指導上は明確な基準は設けていないが、高校生としてふさわしくない頭髪、化粧の生徒も散見されることから、併せて生徒指導のよりいっそうの充実が必要である。

### **(4). 自習室および図書館の利用促進**

昨年度、本館自習室と北畠自習室が完成した。これらの自習室に対して保護者の期待は高く、昨年度本館自習室は高い利用状況であった。本年度も全生徒に対して自習室を周知し、生徒の学習環境を整備するとともに、学習習慣の定着と学習時間増に向けて、いっそうの活用促進に努めたい。

さらに、考査前に実施している帝陵塾の活用促進も同様に努めたい。

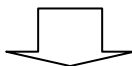
また、ここ数年府立高校全体で図書館の利用は低迷している。本校も同様で、府の施策により図書館に常勤する教職員が削減された影響は大きい。本年度は、蔵書の整備を図るとともに、図書館の活性化に向けた本校独自の新たな体制づくりを学校として図りたい。

### 中期的目標

国際・科学高校として、本校の中心的教育活動である国際教育・使える英語教育と理数教育を柱として、生徒の「学び」と「はぐくみ」を確立し、生徒たちの将来に向けた夢と希望の実現をめざして、「国際社会に貢献できる人材」と「科学技術立国のわが国をリードする人材」の育成を図ることとする。

本校のすべての教職員がこれらの教育目標について、共通理解を深め、全教職員が「**チーム住吉**」となって十分に指導力を発揮し、下記の中期的目標を達成したい。

- (1) . ここ数年、国公立大学への進学者数は現浪合わせて 50～70 人である。ほとんどの生徒が入学時に国公立大学を希望していることから、授業での学びを大切にするとともに、進学講習の充実、自習室など教育環境の整備等を図り、生徒の希望する進路実現に向けて、よりいっそうの取組みを強化する。3年後の目標として、国公立大学合格者数は100人以上をめざす。
- (2) . 本年度から始まった「使える英語プロジェクト事業」において、中核校として事業の円滑な推進が図れるよう、積極的に国際・科学高校としての責務を果たす。今回、優秀な生徒育成を目標とするEFHSのG3校として3ヵ年の指定を受けたことから、事業計画の趣旨を踏まえてTOEICとTOEFLの高得点取得の生徒を育成したい。
- (3) . 国際・科学高校として、理数教育・科学教育の取組みをいっそう充実させる。平成19年度に文科省から指定されたSSHは平成23年度で終了となる。平成24年度のSSH更新を目標として、平成23年度中はこれまでの取組みを集大成し、十分に総括する。また、次年度の更新に向けた新たな取組みを検討し、その基盤を整備する。
- (4) . 本校のユネスコスクール加盟の特色を生かして、ユネスコ活動の充実を図るとともに、SSH事業との融合をめざす。その実現に向け、国際的な共同研究と国際科学発表大会の開催をテーマとするコアSSH指定（単年度指定）の取得を平成24年度に達成する。そのための準備を平成23年度に行う。
- (5) . 住吉高校で育てる「調和の取れた国際感覚」と「豊かな人権感覚」は、これまでどおり本校のすべての教育活動の基礎となるもので、この人権教育の基盤を確固たるものとする。教員・生徒への研修活動等を通して、時代のニーズに応じた人権教育の推進に努める。また、教職員の人権意識の向上にも努める。



### 自己申告票での「中長期的な学校経営ビジョン」への表記について

- ・ 各種の指定を受け、国際・科学高校としての教育内容をより豊かにし、生徒の「学び」と「はぐくみ」を確立する。
- ・ 生徒の希望する進路実現に向けた取組みをいっそう強化する。
- ・ 国際感覚・人権感覚に富む豊かな人間性を備え、社会に貢献できる人材育成をめざす。

## ・本年度の重点目標と取組み

- (1) 生徒が希望する進路実現に向けた取組みをいっそう強化し、確かな学力の育成を図る。
- (2) EFHSのG3校としての責任を果たし、本校の「使える英語力」の向上を図る。
- (3) 全教職員によるSSHとユネスコスクールの取組みの総合化と融合化を図る。
- (4) 国際感覚・人権感覚に富んだ人間性を育み、規律・良識ある行動・態度を育成する。

### (1) 生徒が希望する進路実現に向けた取組みをいっそう強化し、確かな学力の育成を図る。

本校は各種の研究指定を受け、これらの事業の取組みにおいて全教職員の溢れる熱意と卓越した指導力を背景として国際教育や理数教育を中心とする多様な教育活動を展開してきた。これらの活動によりもたらされる生徒の達成感や自己肯定感、将来に向けた進路選択幅の拡大は、生徒が社会に活躍できる人材としての高い志を醸成する原動力として大いに期待できる。また、志により生徒は将来の進路への意識を高め、主体的・能動的に学習等に取り組む姿勢や自ら課題を解決する力をはぐくむことが期待できる。本校の教育活動には、このような高い志を育むという教育目標をもつ一方、具体的な成果を期待する保護者から進路保障に対する熱い思いもある。

伝統校である本校では、生徒の希望する進路実現を図るために、進路決定力を高めるために確かな学力を育成することは、重要な教育目標である。そのためには、各学年としての学習指導方針を設定し、全教職員の共通理解のもと学校運営を図る必要がある。さらに、各教科での教科指導力のよりいっそうの向上が求められ各教科の状況に応じた指導上の工夫、帝陵塾を含む自習室・図書館の利用促進に向けた指導をお願いしたい。

#### 【各学年の本年度の指導方針】

- ・ 1年生：住高生らしさを醸成し、学習習慣の定着を図る。また、住高生としてルール遵守、マナーの向上(遅刻、挨拶、服装、頭髪、化粧など)をめざす。
- ・ 2年生：学校行事・部活動の主体としての活力を高めるとともに、日々の学習努力を促し、将来の進路に向けた準備を始める。また、スタディツアーの成功をめざす。
- ・ 3年生：進路実現に向けて、最大・最高の努力を促す。安易な進路選択ではなく、粘り強く最後まで努力できる生徒の育成をめざす。

#### 【具体的な重点取組み】

- ・ 研究指定事業等を通じた生徒の自己肯定感のレベルアップと、高い志をはぐくむ取組みの強化
- ・ 授業アンケートの結果、家庭学習量が課題。各教科での課題検討と指導改善等の工夫が必要
- ・ 教員の授業力・指導力の向上をめざして、教員間による校内での研究授業等を実施したい
- ・ 2年生から進学講習の実施・長期休業中の講習実施など、組織的な進路保障に向けた取組みのさらなる充実
- ・ 3年生への高い目標に向けた従来からの進路指導のさらなる充実と、PTA主催北畠講習会の円滑な運用に向けた支援
- ・ 本館と北畠会館の両自習室、帝陵塾、図書館の充実と利用促進

## (2) EFHSのG3校としての責任を果たし、本校の「使える英語力」の向上を図る。

本年度、EFHSのG3校として3か年の研究指定を受けた。国際・科学高校として、この「使える英語プロジェクト事業」を最大限に活用し、本校の「使える英語」教育の充実を図ることとする。

府教育委員会から、本事業の推進においてG3校である住吉高校の責任として、他の23校をリードし、本事業の円滑な推進に向けた努力が期待されている。

### 【具体的な重点取り組み】

- ・ 事業運用に向けた校内EF委員会を設置し、校内目標の設定、活動方針と活動内容を確立  
また全教職員が事業趣旨・内容等について共通理解を図る
- ・ TOEFL対策の学校設定科目「スーパーイングリッシュ」の開講  
その準備として、シラバス・指導計画案づくり、評価の検討、科目の生徒への周知等
- ・ 土曜日のTOEIC講習会の実施、運営
- ・ 英語でのディベートを中心とする英語合宿（イングリッシュ・キャンプ）への支援
- ・ 生徒の海外研修（韓国研修、台湾スタディツアー、オーストラリア研修）のさらなる充実、充実に  
向けた全校的な支援
- ・ 事業に関連して他校との連携を深め、府立高校全体のEFHS推進協議会等への参画

## (3) 全教職員によるSSHとユネスコスクールの取り組みの総合化と融合化を図る。

本校が国際・科学高校としてめざす「国際社会に貢献できる人材」と「科学技術立国のわが国をリードする人材」の育成では、SSHとユネスコスクールの教育活動が極めて大きな役割を果たしてきたことは周知のとおりである。また、今年度は新規事業としてEFHSの指定が加わった。そのため、これまでの学校経営方針により多種多様な教育活動の展開に努めてきた経緯もあって、授業以外の学校行事は相当な量に達している。

今後は、生徒が落ち着いた教育環境の中で学習に専念する余裕が必要であることから、活動範囲の拡大や活動量の増加ではなく、行事の重要度・必要度を精査し、生徒の学びや進路保障につながる取り組み等への精選を図りたい。（これを総合化と称する。）

また、本年度末で終了となるSSHは、次年度のSSH更新に向けた対応と、新たなコアSSH（H24年、単年度事業）の応募に向けた動きを、今始めなければならない。そのため、全教職員が参加する新たなSSH事業体制を整備し、ユネスコスクール加盟とEFHS指定校の特色を最大限に生かした新たなSSHへの融合が必要である。

本年度、国際教育・「使える英語」教育と理数教育とを相互に生かした活動や取り組みを立案し、融合化と総合化を図り、学校全体として新たな方向への転換をめざしたい。

### 【具体的な重点取り組み】

- ・ 次期SSH事業の更新、新たなコアSSH事業に向けて、海外姉妹校との科学教育での共同研究を開始
- ・ SSHとユネスコスクールの各活動を精選し、融合化、総合化
- ・ 実験合宿・つくば研修、最先端科学者による講演会等を、よりいっそう充実
- ・ 姉妹校との美術を通じた国際理解教育の推進

#### (4) 国際感覚・人権感覚に富んだ人間性を育み、規律・良識ある行動・態度を育成する。

本校は、これまで多数の帰国・渡日生徒を受け入れ、短期・長期の留学生と共に学ぶ素晴らしい実績を誇っている。国際・科学高校の役割として国際感覚の涵養と、これまで本校が培ってきた人権感覚の育成は、本校での「はぐくみ」の基本をなすものであり、本年度も引き続きこれまでの教育方針を踏襲することが重要である。

また、一方として本校には自主自律の育成がある。しかし、近年この自主自律について生徒は正確な理解をしていない状況がみられる。生徒の中には、「オールフリー」が本校の校風という間違った捉え方をするものが見られる。本校生徒の服装や頭髪等の自由度は他校に比べて高い状況にあり、この実態は望ましくない方向に働いている。昨今、地元の中学生をもつ保護者や学校周辺の社会人から否定的に見られている面が少なくない。その中でも、3年前に導入した推奨服は、大きく前進した取組みとして地元中学生の保護者や中学校関係者からの評価は高い。そして、本年度から新入生には全員購入をお願いしており、今後は式典や来賓を迎える行事等での推奨服の着用指導の充実が必要である。

また、頭髪・化粧の指導では指導基準づくりでの全教職員の合意形成において難しい面はあるが、生徒の中に高校生としての許容範囲を逸脱している生徒も散見されることから、高校での「オールフリー」は生徒自身の成長に結びつかないことや、社会的には容認・評価されるものではないということを伝えるべきである。そのためには、まず教職員間での指導に対する共通認識・共通の指導基準をもつことから始め、高校生としてふさわしくない場合には、すべての先生がきちんと指導するという体制を整える必要がある。本年度は頭髪・化粧・携帯使用等の生徒指導等に取り組みたい。

さらに、生徒指導部のこれまでの遅刻指導の強化にもかかわらず、府立高校の平均（4000人台/年）の2倍近い遅刻者数の状況である。引き続き遅刻指導を進めたい。

住吉高校の生徒に対して社会的な一般評価としては高い面があるが、実態として日ごろの来客者等に対する挨拶が不十分な生徒も見られる。学校としては、学力面だけではなく、豊かな人間性をはぐくむための基盤として、社会通念上求められる高校生としてのルールやマナーについて、指導を充実させなければならない時期に来ている。生徒指導部を中心に全教職員による組織的な指導体制を構築する必要がある。時代や社会が求める高校生像が変化の中で、本校で育む「自主自律も変化すべき」と考える。

#### 【具体的な重点取組み】

- ・ 生徒の国際感覚、人権感覚を醸成する取組みの充実
- ・ 式や来賓を迎える場面での推奨服の着用指導の充実
- ・ 生徒の社会規範意識の向上や社会的ルールの遵守（服装、頭髪、化粧、遅刻、挨拶など）など、全校的な取組みの体制づくり
- ・ そのための校内のマナー基準の確立と生徒への指導方針の周知